

デイリー・ジーザス・ニュース #243

受難週：日曜日…歓呼と賛美の日

エルサレムへの道でイエスは救世主として迎え入れられる

ルカ19:36-40; ヨハネ12:16-19 (並行聖書: マタイ21:8-9; マルコ11:8-11; ヨハネ12:13-15)

36 ^Lイエスが進んで行かれると、^{MT}大勢の人々が道に自分たちの外套を敷き、^Mまた、ほかの人たちは^Jイエスを出迎え、^M野原で切ったしゅろの枝を敷き詰めていた。

37 イエスがオリーブ山に下る道の近くに来られたとき、弟子たちの群れは皆、イエスの前を行く者も、イエスに従って行く者も、^{自分たちが見たすべての奇跡について大声で}神を賛美し、喜びにあふれてこう言った。

^{MT} 「ダビデの子にホサナ！」

「我々の父ダビデの来たるべき王国は祝福される！」

38 ^L 「主の名によって来る王は祝福される。（詩篇118:26）」

「天には平和、いと高きところには栄光あれ！」

39 群衆の中にいたパリサイ人のある者がイエスに言った。「先生、弟子たちを叱らなければなりません。」

40 イエスは答えて言われた。*「あなたがたに言っておく。たとえ彼らが黙っても、石は必ず叫ぶであろう。」*

^J弟子たちは最初、このすべてを理解しませんでした。イエスが栄光を受けた後、これらのこと�이エスについて書かれ、イエスに行われたことを悟りました。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの城門のすぐ外にあるオリーブ山にて
タイムライン	4月上旬（39ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	A. 日曜日：歓呼と賛美の日
タイトル	2. エルサレムへの道でイエスは救世主として迎え入れられる

コメント：

ディリー・ジーザス・ニュース #243

今日の聖書朗読は、イエスのエルサレム入城が、過越祭の巡礼者たちの大群に、熱狂と興奮の渦を巻き起こしたことを示しています。（この祭りの間、エルサレムの人口はこれらの巡礼者たちのおかげで10倍に増加しました。）聖都エルサレムがこのような光景を目にしたのは、実に久しぶりのことでした。

ヨハネは、群衆の規模と熱狂が急速に増大した理由の一つは、わずか6週間前にラザロが復活したことの影響だと指摘しました。ラザロはイエスのそばにいた弟子たちの群れの中にいたと思われますが、イエスが本当に生きているという証拠を見ようとした巡礼者たちも、次々と群衆に加わっていきました。その反響はあまりにも大きく、パリサイ人たちはついに「全世界がイエスに従っているのを見よ！」と叫ぶほどでした。これはイエスの民衆の支持が最高潮に達した時だったが、それはほんの数日しか続かなかった。間もなく、同じ群衆が「十字架につけろ！ 十字架につけろ！」と叫ぶことになるだろう。

弟子たちは服を道に投げ捨て、また棕櫚の枝を切って道に敷きました。群衆はたちまち増え、たちまちそれに加わりました。これが「棕櫚の日曜日」という言葉の由来です。道は舗装されておらず、このような大勢の群衆が集まると、土煙が舞い上がるでしょう。そこで人々は、メシアへの敬意を表して道の舗装をし、王イエスがエルサレムに到着するまでに土煙に埋もれないようにしたのです。

シユロの枝もまた、祝祭とお祝いの象徴でした。毎年9月の仮庵の祭りでも、同じようにシユロの枝が使われました。イエスの行列は大きな喜びで活気づけられ、多くの人々が巨大な行列を進む道で踊ったに違いありません。多くの子供たちがそこにいたことからも、イエスの行列が家族全員の祝祭になったことがわかります。

衣服や棕櫚の枝の色彩、そして動き回る群衆の揺らめきとリズムとともに、空気は力強い賛美と歓呼の声で満たされました。朗読の中で記録されている四つの賛美の言葉はどれも、旧約聖書の豊かな背景を持ち、主に捧げられるものでした。イエスは神の子であったため、当然のこととして彼らの賛美と礼拝を受け入れました。「天に平和、いと高きところに栄光あれ！」は、イエスが生まれた夜に天使たちが捧げた賛美とほぼ同じ言葉でした。これは力強い礼拝でした。

この崇拜はイエスにとって当然のことでした。パリサイ人が弟子たちの崇拜を叱責するためにイエスを訪ねた時、主は彼らにこう告げました。「もし人間の賛美が止まれば、代わりに岩が叫び始めるだろう！」イエスが「ダビデの子、メシア」の称号を正式に主張した時、イエスの神性は否定されねばなりません。

イエスへの称賛がこれほど大規模かつ熱狂的に公に示されたことは、わずか36時間前にベタニアで行われたマリアの静かな礼拝とは鮮やかな対照をなしていました。イエスがマリアの礼拝を記念されたのは、それが誠実で心からのものであり、マリアがそのためにすべてを犠牲にしたからです。この大規模な礼拝は、ソロモン王の治世における神殿奉獻式を除けば、当時の聖書におけるどの礼拝場面よりも多くの人々が一度に参加したと言えるでしょう。しかし、わずか5日間で、イエスに対する最も激しい拒絶が起きました。

神への愛は、公の場で集団で礼拝する経験によって測ることはできません。神への愛を真に測る唯一の確かな指標は、私たちの従順さです。

ディリー・ジーザス・ニュース #243

応用：

ヨハネは、弟子たちが枝の主日に何が起こっているのかを、実際に起こっている最中には理解していなかつたことを指摘しました。イエスが天に昇り、弟子たちに聖霊の賜物を注がれた（「栄光を受けた」）後に初めて、弟子たちはこれらの出来事の真の意味を思い出し、理解することができました。イエスが何を語り、何をなさったかを真に理解するためには、聖霊の力が必要だったのです。

これは私たちにとって大きな励ましです。私たちも、福音書に記されているイエスの言葉と行いの真実を、聖霊の力によって理解し、体験することができます。実際、私たちは目撃者たちと同じように、これらの出来事をすべて理解することができます。なぜなら、彼らと同じ聖霊が私たちの内に宿っているからです。だからこそ、イエスの生涯を学ぶことは、言葉では言い表せないほど刺激的で、啓発的なものとなるのです。考えてみてください。福音と聖霊を通して、私たちはイエスを、弟子たちが肉体を持ってイエスと共にいた時よりも深く知り、体験することができるのです。

福音書に記録されているイエスの生涯の真実の物語を通してイエスを明らかにする聖霊の力に、もっと頼るにはどうすればよいでしょうか。

福音書の中でイエスについて読む時間を増やすにはどうすればよいでしょうか。いつから始めますか。